

## 第 60 回全国国立大学法人病院検査部会議要旨

期 日:平成 25 年 6 月 13 日(木)～14 日(金)

会 場:道後温泉にぎたつ会館 (松山市道後姫塚 118-2)

当番校:愛媛大学

出席者:各大学の検査部長、技師長等 90 名

1 日目 平成25年6月13日(木) 15:30～20:00

検査部施設見学 15:30～16:30 愛媛大学医学部附属病院検査部

44 名の参加があり、4 グループに別れ検査部内の見学を行った。

文部科学省の 2 名も検査部見学(支援センター等の 3 部署を含む)をされ、検査部の現状についてヒアリングが約1時間され、種々の問題点等について説明した(担当:技師長)。

検査部会議懇親会 18:00～20:00 道後温泉にぎたつ会館 1F 芙蓉の間

2 日目 平成25年6月14日(金) 8:30～16:00 道後温泉にぎたつ会館1F 芙蓉の間

開会 9:00～ 9:30 司会 村上 剛(愛媛大学医学部総務課副課長)

進行係から資料の確認があり、開会宣言の後、愛媛大学医学部附属病院の三浦 裕正副院長及び大澤 春彦検査部長から挨拶があった。その後、慣例により議長に当番校の大澤部長を提案、了承され議事に入った。引き続き議長から文部科学省、愛媛大学の陪席者の紹介が行われた。さらに平成 25 年度の新任の検査部長 4 名、技師長 5 名、医療技術・診療支援部長 2 名の紹介があった。

第一部 特別講演 9:30～10:20 座長 矢富 裕(東京大学検査部長)

大学病院を取り巻く諸課題について

西尾 和幸 主任(文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室)

政府・与党における論議の状況(産業競争力会議について、教育再生実行会議について、今後の医療提供体制に関する検討)、平成 25 年度予算額等の概要、国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めてについて講演が行われた。ISO15189 取得の必要性および各大学での取得費用の予算化について文科省からの指導の要望があり、私見ながら大学病院において ISO15189 取得は必要であると述べられ、また持ち帰り上司に報告することが確約された。

第二部 シンポジウム1 10:30～12:00 座長 横田 浩充(東京大学検査部技師長)

テーマ:中央採血室の運用における現状と課題

1)アンケート調査報告 愛媛大学 西宮 達也 技師長

2)シンポジウム

宮崎大学 梅木 一美 技師長

大阪大学 末久 悦次 技師長

長崎大学 南 惣一郎 技師長

受付方法、採血開始時間、採血人数、採血担当者数、採血ブース数、採血管準備システム、採血方法、待ち時間、採血内容などについてアンケート調査を行い、集計が報告された。

採血待ち時間の短縮、患者のプライバシーへの配慮、採血室内の患者の導線、安全な採血、患者取り違えの防止、感染対策などについて、各施設での問題点や改善点について報告があった。

昼食 12:00～13:00

幹事会 12:00～13:00

**第三部 会務報告 13:00～13:50** 司会 大澤 春彦(愛媛大学検査部長)  
進行 矢富 裕(東京大学検査部長)、横田 浩充(東京大学技師長)  
感謝状(楯)贈呈、会務報告、幹事会報告、その他

**第四部 シンポジウム2 14:10～16:00** 座長 大澤 春彦(愛媛大学検査部長)

テーマ: 遺伝子検査の現状と問題点

1) 基調講演「遺伝子検査による個別化医療を目指して」

三木 哲郎 教授(愛媛大学大学院医学系研究科老年・神経・総合診療内科学講座)

生活習慣病の代表である高血圧等の発症遺伝子の単離同定に向けて行って来た研究の紹介、および OTC 遺伝子検査(医療機関を通じない一般遺伝子検査)の現状について報告された。

2) シンポジウム

山口大学 岡山 直子 副技師長

筑波大学 南木 融 技師長

信州大学 松田 和之 副技師長

3大学における遺伝子検査の実施状況、運営方法、および課題について報告があった。特に、多岐にわたる遺伝子の検査法の確立、検査法の標準化、精度管理方法、部屋の確保、コスト等について共通の課題が報告された。

閉会 16:00

#### 資料一覧

- ・「第60回全国国立大学法人病院検査部会議」冊子
- ・特別講演「大学病院を取り巻く諸課題について」
- ・シンポジウム1 アンケート調査報告(中央採血室の運用における現状と課題)
- ・平成25年度検査部会議会務報告資料
- ・愛媛大学医学部附属病院広報誌 VOL30,31